

## 第2回 神戸アートビレッジセンター地域活性化機能検討会 議事要旨

| 日 時 | 令和3年5月28日(金) 13:30-15:30

| 場 所 | 神戸アートビレッジセンター会議室1および全館

| 議事内容 | ①神戸アートビレッジセンター館内視察

②第1回検討会の振返りおよび全体スケジュールの確認

③各委員の意見交換

| 委員からの意見・提案 |

### ① 神戸アートビレッジセンター館内視察

〈指定管理者〉

- ・リハーサル室は直上階が住宅であり、音や振動が伝わることによるクレームはある。
- ・1階は飲食店として使っていたこともあるが比較的短い期間で退去した。
- ・1階の窓ガラスに子どもと絵を描くワークショップなど実施している。
- ・アトリエは職員が付いて使用する必要があり、月に5日程度のみ開けている
- ・シアターは映写技師が減少しており、人員確保が難しくなっている。

### ② 第1回検討会の振返りおよび全体スケジュールの確認

〈事務局〉

- ・第1回では[資料3]のような意見があった。
- ・検討会としては9月頃に結論として方針を取りまとめたいと考えている。
- ・頂いた意見などを踏まえながらゾーニング案など作成し、具体化に向け進めていきたい。

### ③ 地域、施設に関する各委員の意見交換

〈事務局〉

- ・KAVCの館内視察を踏まえ、印象や課題、疑問点および活性化に向け現時点で考えられる施策などあれば自由にご意見頂きたい。

〈委員〉

- ・上部住居とKAVCの関係性は？→施設部分は市が区分所有者。
- ・周辺にも若い世代が多いのは意外。  
→昔は避けられていたが、ここ数年はマンションが増えた。最近はワンルームマンションも増えてきている。
- ・コロナ前はホームレスの方が長時間いたこともあり、他の方が使用しにくい状況の時もあった。→きれいな場所であれば長時間は滞在しにくいのでは。

- ・外国人の住人も増えており、多文化共生の考え方も必要。
- ・カルチャーセンターとしての利用はこれまでなかったのか。
  - 教室は検討してきたが、収入と支出のバランスや利用時間帯の問題から難しかった経緯がある。また、各区には文化センターがあり、アートセンターである KAVC との棲み分けが必要と考える。現実としては、平日の利用者の利用時間帯からターゲットが決まる。
- ・施設内であまり声がしない。
- ・カルチャーセンターは高齢者のイメージなので若者向けのカルチャーセンターがあったら面白いのでは。また、短期だけでなく、定期的実施できると良い。
- ・文化振興を考えるにあたり、施設の利用率を評価基準とするのが良いのかは疑問。
- ・学生に新開地のイメージを聞いてみたが、あまり知られておらずイメージがなかった。
- ・若手芸術家の育成の観点から、テクノロジーを使える施設など時代に合ったものが求められる一方、ここでしかできない・ここにくる意味があるといった独自性も必要である。
- ・名前からは何をしているところかわかりにくい。
- ・まちの歴史を知られていない。物理的な展示も良いが VR など空間として昔のまちなどを体験できると面白いのでは。
- ・トイレを有料にしてはどうか。海外では有料のところも多い。
- ・映像制作への需要はどうか
  - 学びたい学生は多いが、作品を作るのと人の流れが生まれるのは別かもしれない。
  - また、機材は日進月歩なので施設側で用意するとすぐ古くなってしまう問題はある。
- ・アートビレッジ構想は芸術村にするというものであり、KAVC はその拠点の位置付け
  - 拠点としてまちを考えるのか、施設としてにぎわいを考えるのか。二兎を追うとどっちつかずになるのでは。
- ・神戸市全体にとっての芸術の場という考え方もある。人がくるだけでなく、若手芸術家が練習できる場など、今ある KAVC の機能をなくした場合、他で担保できるのかについても考えるべき。
- ・映画館自体は代替できるが、良い映画を残すという観点では KAVC でやる意味はある。
- ・喜楽館に出ている若手は出番が少ない一方で移動時間が長いので、寄席後に KAVC で時間を有効に使えるような連携ができないか。
- ・落語家やアーティスト、劇団員などからも他のジャンルのアーティストと出会う宿泊の場などあれば面白いという声がある。まちで消費する流れにもつながる。
- ・シルクスクリーンの活用として、異なるジャンルのアーティストが版画を作成して商品として売るといった企画をやったことがある。アーティストの収入の支えにもなる。
  - ギャラリーがついていないアーティストであれば可能性はある。
- ・子どもに特化するという視点は面白いのでは。日本では子どものアート教育が進んでおらず、アートに触れる機会が少ない。
  - 需要を計る意味でも実験的に子ども向けのイベントの実施を検討する。

- ・この辺りは兵庫区でも子どもが微増しているエリアで、区役所のふらっと広場やふわふわドームの需要は高い。
- ・指定管理の業務内容としてどこまでを継承してどこまで新しいことをやるのか。今いるスタッフでやるのか、新たなスタッフが必要なのか。何かをやるには何かをやめる必要がある。